

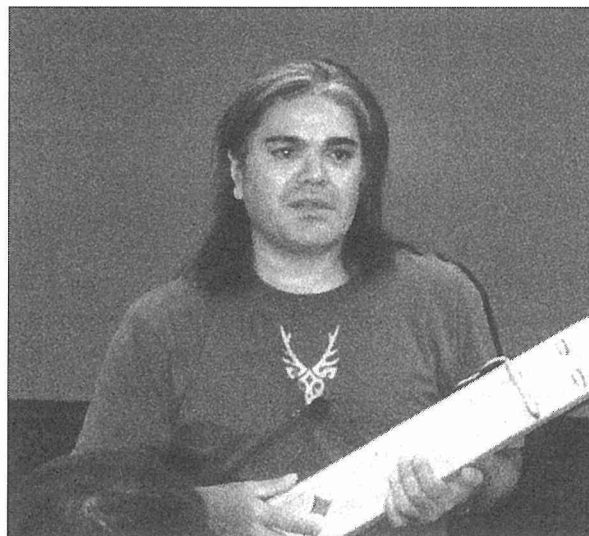
東京会場

トンコリを通じて伝わるもの

8月21日(水) 19:00~20:30

講師

アイヌ文化活動アドバイザー 居壁 太



私は、北海道浦河町野深（のぶか）の出身です。アイヌ語のイカペツ（イカika・ペツpet=溢れ・川）に漢字を当てはめたのが居壁の由来です。意味としては水が溢れ出て、蛇行していく風景や場所をイカペツというので、そこに住んでいた人たちはみんな居壁を名乗っています。

今回は「トンコリを通じて伝わるもの」という題名ですが、私自身、トンコリのことはまだ詳しくありません。オキ（加納沖）と知りあってから始めて、まだ4年目です。今2台のトンコリを持っていますが、2台とも兄の星野工（ほしのたくみ）が作ったトンコリです。普通、トンコリは5弦が一般的なので、これについて自分の知っている範囲で説明したいと思います。

トンコリは人を表すといわれています。上から頭、耳、胴体、真ん中の穴の開いている所がヘソで、中に必ず心臓とか魂が入っているそうです。昔のトンコリには、木炭が入っているものもあったそうです私は今、演奏活動をしていますので、特別に6弦で作ってもらったものも持っています。これはギターのナイロン弦を張った6弦のトンコリです。

これまで、数ヶ所で演奏活動をやってきました。伝統曲をベースにして自分なりのアレンジをしていますので、伝統曲そのものはきちんと弾けていないと思います。今日もいらしている富田先生が伝統曲を研究されていて、私なんかよりも詳しい方です。富田先生はじめ、色々な方が昔の音源を起こして楽譜に残すという取り組みをされています。

私はオキと演奏を一緒にやっていますが、伝統曲をベースに自分の思いを込めてやっています。オキは、ウポポ（歌）にしても、トンコリにしても、即興的にその時その時の思いを込めて演奏するなり歌うという持論を持っています。私はベースになるものは大切にしながら、今のアイヌの思いを伝えていきたいと思ってトンコリをやっています。今まで押さえつけられた、というのはおかしいですが、アイヌのうちに秘められていた思いというようなものを、トンコリを使って出していきたいと思っています。それと、トンコ

リを弾きながらウポポもやっていきたいのです。昔の曲を大切にしながら、私達の歌、伝統曲をアレンジして今のアイヌの音楽というものを演奏していきたいと思っています。

アイヌの音楽に限らず、民族音楽は同じフレーズの繰り返しでだんだん高揚していくものが多いのですが、高揚していく時、自分が弾いているのではなく、トンコリに弾かされているというか、指が勝手に動かされているという感覚に陥る時が結構あります。そういう時が一番心地良く、自分がトンコリと一体になったと感じられる瞬間です。皆さんの中にも触って弾かれた方がいらっしゃると思いますが、弾いている本人が心地いいし、気持ちがいいのです。心地良い振動を感じますし、ここから出る音だけでなく、倍音がかなりすごいのです。そこがトンコリに惹かれていった理由です。もともとギターを弾いていたのですが、トンコリの奥の深さに惹かれたところがあります。皆さんも実際に触ってみなければトンコリのもつ魅力が分からないかもしれません。まだまだ技術は持っていませんが、これからもトンコリの伝統曲をもっと覚えて、弾けるようになっていきたいと思っています。また、今のアイヌの思いを表現する曲も作っていききたいなと思い取り組んでいます。

私の場合、トンコリに出会って、トンコリをきっかけにアイヌのことを再び始めました。振り返ってみると、前は西早稲田にあって、今は中野に移転したアイヌ料理店（レラ・チセ）で働いていた時にオキと知り会いました。その時まではアイヌ問題に関心はありませんでした。自分はアイヌだというのは分かっていたんですが、そんなに深くは考えていませんでした。それまでは踊りの練習も仕方なしにやっていたし、アイヌの生活や音楽の素晴らしさというのが、私には分からなかったのです。

トンコリを始めてから、踊りでも他の面でも、気持ちがこもっていないと人に伝わらないということが分かりました。だから、踊りに関しても気合を入れるというか、思いを込めてやっています。男の伝統踊りであるクリムセ（弓

の舞)とエムシリムセ(剣の舞)の二つを主にやっています。踊りでもトンコリに関しても、毎回、あとから考えて反省する点があり、こうやった方が良かったのじゃないかと自分なりに思うところがあります。

今年の1月、2月にかけて、旭川のオキのところへ行き、樺太のフチ(おばあさん)が弾いていた音源を聞かせてもらいました。その奏法たるや、すごいもので、チューニング自体もすごく、自分たちで再現してみようと思っても、オキもできなかったほどです。それは「ヤイカテカラ」という曲で、思いが通じた恋愛で喜んでいる様子を表している曲でした。フチがその当時を思い出して、嬉しさをそのまま表現していて、奏法も一定じゃなく、リズムも変わります。強さだけではなく、絶妙な音の伸びがあります。そこがすごく心地良く、トンコリの良さでもあり、それが跳ね返ってきて倍音のない音がでるのです。録音の中のフチの奏法はすごく、こういうふうに弾いてみたいと今年の初めから思われました。なるべく近づきたいと思うけれど、やはり難しいですね。一定のリズムを刻んでいるわけじゃなくて、別のリズムに変わったり、元のリズムに戻ったりする、あのフチ独特の奏法には感激しました。

伝統曲の「トーキトララン」は東と西で違うようです。オキはオキなりの奏法で表現しています。オキは、弾いているのを、そのままコピーする必要はないと言います。その「トーキトララン」の鳥が沼に降りてきて…という情景を思い浮かべて、元々のメロディーを基本にして、自分なりのアレンジというか、思いを込めて弾けばいいよ、と言ってくれます。自分はコピーしよう、コピーしようと思っても、オキはアイヌ式で、書いたものを一切よこさないのです。見て、聞いて、覚えろという教え方です。彼が東京へ来るのは年に数回しかなく、その度に私は真剣に見て、聞き覚えたつもりなのですが、実際一緒に弾いてみれば、全然違うということが結構あります。「トーキトララン」とか「ヤイカテカラ」とか皆が聞いてすぐ分かる基本のメロディーは残した上で、自分なりのアレンジをこれからもやっていきたいなと思っていますし、やらなければいけないのでしょう。

結構いいものを先輩たちが復元してくださっていたから、自分はトンコリができるようになったと思っています。そのおかげで自分でも変わったと思うし、眼つきが変わったなど昔の友達にも言われます。今真剣にやっていますからね。昔は、希望というようなものもあまりなかったし、仕事を適当にやっていたらいいかと思っていました。自分がアイヌだと自覚をもってできるようになったのもトンコリのおかげです。私はトンコリに出会えたことがすごいことだと、カムイに対して本当に感謝をしています。こういうふうに巡り合わせてくれたオキにも本当に感謝しています。今は親友で、一緒に演奏活動もやって、東京に来たら飲み歩いています。このように、自分の中に目標ができましたし、トンコリとの出会いというのは、自分にとっては人生の中で最大の出会いじゃないかと今思っています。

トンコリの持つ魅力というか、魔力によって、たぶん皆さんもちょっと触って弾いてみれば惹かれていくのじゃな

いかと思います。こうやって抱えると、この振動とこの倍音がすごいのです。弦の音もそうです。このヘソから出てくる倍音もすごいですね。これはマイクでは拾えない音なので、CDにも多分再現できないような、弾いている人しか分からないものではないかと思っています。トンコリを弾いている人は、皆そう思うだろうと思います。

この楽器は解放弦ですが、奥深く、この強さでも音の伝わってくるものが違います。古い方のトンコリは三味線の弦を張ってありますが、もう一つのトンコリはナイロン弦です。家には鹿のアキレス腱を紡いだ弦もあるので、それを一回これに張ってみたいのですが、まだ2本しかないので演奏はできません。一度張って音を出してみると、アキレス腱の響きは、確かに他にはないものですね。三味線の弦の響きと違い、優しい音色というか、すごくいい音です。何とか5弦を揃えてやってみることが今の目標です。それを自分としては、大勢の中で聴かせるのではなく、自分だけで楽しみたいのです。これは、自分にしか分からないと思います。ごく近くにいれば倍音は感じられるかもしれないけれど、この振動と倍音が一体化した時がすごく心地良く、引き込まれるからこそトンコリに魅了されるのです。

私のトンコリに関しての思いは、こんな感じです。何かご質問がございましたらどうぞ。

質 問：楽器の経験はないのですが、そういう人間でもできますか？

居 壁：できると思います。リズム楽器的にも使えますし、自分なりのチューニングでチューニングをきちんとして、順番を覚えて、テンポが分かれば弾けると思います。私は昔、ギターとか色々な楽器をやっていたから、比較的簡単にできるようになったのかも知れませんが、練習次第だと思います。あとは、思いが大切です。

質 問：楽譜はありますか？

居 壁：富田先生が作られている楽譜はございます。楽譜的なものが載っている本もあります。

私はこういうのはあまり見ないで、オキの演奏を見て聞いて覚えるというふうに教えてもらっています。

質 問：CDなどを聴いているだけで弾けるものなのでしょうか？

居 壁：例えば、音を1音ずつ拾って行って、あとは自分で弾きやすいように、弦の張り方とかチューニングすることもできます。弾きやすいように並び替えるという方法もあると思います。

質 問：通常は4弦でしたか？

居 壁：5弦が一般的です。6弦のほうは、普通はあまり使っていません。書いたものによりますと、昔は3弦だっ

たり4弦だったりします。でも、一般的にトンコリとしては5弦で、大陸から伝わった楽器じゃないかと思うのですが、伝わってきた時に何弦だったのかは分かりません。樺太に渡って来てからはこのスタイルだと思いますので、5弦が本来のトンコリです。

質 問：遠くに持っていかれるときには、どうされますか？

居 壁：私の場合は、釣り道具の大きいバッグに入れ、弦は緩めて、ぶつからないようにタオルで全部保護して持って歩きます。去年、台湾に行ったときもそうやって持って行きました。人によっては、楽器を運ぶような専用のケースを作っています。

飛行機に乗るときは、預けず、機内に持ち込みます。投げられると困りますから。今、残念ながらこういう大きいのは持ち込めなくなって、手渡し扱いです。ベルトコンベアで流さないで、係員が持ってきて直に手渡ししてもらいます。飛行機の場合、機内持ち込みはもともとダメだったらしいのですが、去年の9・11テロ以前は、無理を言えば持ち込めたのです。それ以降は厳しくなって、今は無理みたいですね。長旅の時は、厳重にエアキャップに包んでいます。近場の時は、バックに入れてタオルで包むぐらいです。

質 問：「トンコリ」には、何か意味がありますか？

居 壁：「響く」とかそういう意味でしょう。

受講者：ギリヤーク語（ニヴフ語）です。ギリヤークの方々の言葉でトゥンクルという言葉があって、それがアイヌ語の中ではトンコリと呼ばれるようになったのではないのでしょうか。その言葉の意味自体をギリヤーク語で解釈できるかどうかは分かりませんが、擬音的なものの兼用として呼ぶようになったのではないかと思います。

居 壁：トゥンクル、トゥンクリと聞こえるような感じで。

受講者：私は1960年代に藤山ハルさんのトンコリの演奏を聴きました。私は音楽がだめなので、言葉の方で習っていました。「トンコリと子守唄は切っても切れない。子供が泣く声をトンコリが真似ている」と聞きました。ギリヤークの捨て子が山に捨てられて、その子をアイヌの女の人が拾って育てた。自分が捨てた子供をあやす歌が子守唄で、子守唄とトンコリを聞いた実の親が、自分の子供だと分かり、めぐり合うというお話があって、その歌もちゃんと入っています。トンコリのその音色にぴったりなのです。私は、女性の演奏家しか聴いたことがありません。

居 壁：そうですね。ムックリもそうですが、本来女性が使っていた楽器だと思います。

受講者：ヤイカテカラは、女の歌なのです。女の男に対する恋心もあるし、見せびらかしたい心もあるし、その思い

を歌うのがヤイカテカラなのです。

居 壁：テーブルの中でフチが語っていたのですが、そのフチはそれで思いが通じて嬉しいということでした。

受講者：恨みもトンコリの音色で歌います。それがヤイカテカラだから、「恋の歌」と訳すといけないと思います。

居 壁：トンコリは女性が弾いていたから、女の歌になるのですね。

質 問：アイヌの女性の演奏家はいますか？

センター所長：私も北海道内の動きは分かりませんが、首都圏で一生懸命努力して、取り組んでいらっしゃる方は何名かいらっしゃいます。

質 問：今、女性が弾いていたとおっしゃいましたが、そういう楽器を男性が弾くということに抵抗とかは、昔はあったのでしょうか？

居 壁：江戸末期の絵に、男が弾いている絵があります。松浦武四郎の絵にも、男が縦に持って弾いている絵があります。

センター所長：トンコリについてはよく分からないことが多く、研究が進んでいない面もあります。中には樺太アイヌの方々のシャーマンが儀礼的に使っていた楽器ではないかという方もいますし、どれが正しいのか分からないところが多いと思います。

居 壁：そうですね。学者はいろいろな説を立てて研究してくださっているのですが、アイヌは書いたものを持っていないので、はっきりしたことは分かっていません。フチの言っていたことを信じるしかない。そういう先生達も、フチが言ったことを信じて記述しているところもあります。樺太でも東と西で違ったりして、定かではない事がトンコリに関してはあるようです。

質 問：病気治療にトンコリの曲が使われたと聞いたのですが、どうなのでしょう？

居 壁：治療というか、魔除けの意味でしょう。こういう音を嫌うのですね。熊の足音だという人もいますし、そうじゃないという人もいます。曲の題名についても、遊び歌だという人と、目の見えないケントさんという人が帽子を飛ばされたよ、そういう人を見守りなさい、といった歌だという人もいます。題名にしても、人による色々な解釈などがあって、分からないところがたくさんあります。

受講者：藤山ハルさんの伝承では、トンコリは汚れを清くするということです。浄化するという働きがあるとおっしゃっ

ています。

居 壁：そうですね。自分自身も、弾いていてそうですから。

受講者：先程シャーマンが儀式に使ったというお話がありましたが、トンコリはお祈りには関係ありません。儀式に必要なのは太鼓です。ただ、トンコリに汚れを浄化するという働きはあったと思います。

居 壁：そういう意味で、さっき言った病気を赦うとか、そのために聴かせるという感じですかね。

次に、演奏してみたいと思います。伝統曲ではなく、オキが作った「ススリウカ」という曲です。ススはアイヌ語で柳の木のこと、リウカは橋のことです。柳の木は皆さんもご存知のように、イナウ（木幣）を作るのに使います。その柳が永遠に続く橋、柳の生えている情景を曲にしたものです。今年亡くなった葛野エカシ（葛野辰次郎氏）の話を聞いて、それをヒントにオキが作った曲を演奏してみたいと思います。

（トンコリ演奏）

今のがススリウカという曲で、4、5年前にオキが作った曲になります。続いて5弦のトンコリを使って、「スマカー ペカ イレクテ」という曲を弾きます。浜辺を歩く男とか、浜辺の情景を表した曲です。

（トンコリ演奏）

次の曲も同じチューニングで演奏します。「レタッチリ」という曲で、これは鳥がいっぱいいる情景を表し、鳥は白鳥だそうです。

（トンコリ演奏）

チューニングをちょっと変えさせていただきます。練習中の曲で、「チャランケ（議論）」を演奏します。

（トンコリ演奏）

質 問：私はお琴とお三味線を弾いていますが、例えば、お三味線だと調子があるのですが、トンコリのお調子というのはあるのですか？

居 壁：曲によってチューニングは変わりますが、本調子的なチューニングがあります。C、G、Cとか、ド、ソ、ドでしたか。この5弦トンコリでオクターブ違う音を使う曲があります。倍音的に使い、同じ音でもオクターブ違うのを使ったりするのですが、詳しいことは分かりません。曲によってチューニングを微妙に変えたり、その人その人のチューニング方法もあるらしいです。

質 問：弾きながら途中で変えるということはしないのですか？

居 壁：しません。民族音楽のほとんどがそうだと思うのですが、リズムもメロディー的にも単純なフレーズで、その繰り返しが多いですね。5弦だったら、5弦で足りるようになっていて、演奏にもそういう曲があります。

トンコリは立ってばかりじゃなく、座って演奏するようで、昔の絵にあります。座ってあぐらをかいて演奏しています。私はギターを弾いていたので、どうしてもギターを弾くような感じです。これからは、ちゃんとした奏法、フチの弾いていたような演奏をマスターできればいいと思います。かなり違いますので、マスターできるかどうかは分かりませんが。あとは自分の子供や次世代が興味を持ってくれば一番いいかなと思います。自分を乗り越して次世代が興味をもってくれば、私としては本望です。トンコリという素晴らしいものをずっと伝え残していきたいし、あちらこちらでトンコリを持っている人がいれば、それぞれの思いを込めて弾けておもしろいと思います。フチの演奏に近づいて、できればその伝統曲を後輩に伝えたい思いはありますが、今のところまだ始めたばかりです。

踊りの方は体力的に厳しいところがあります。ウポボも続けていきたいと思います。他には、男ですから、アイヌの儀式のカミノミ（神への祈り）を勉強中です。イナウケ（イナウを作ること）も北海道から講師を招いて教えてもらっています。明治以降、途絶えた伝承を復活していきたいのです。自分たちが覚えなければ次の世代に伝えられないですから。関東にエカシ（長老）に来てもらうのは体力的に厳しいので、できれば北海道に住んで、エカシの近くで学びたいという希望を持っています。トンコリも含めて全部では欲張りなところもありますが、私はずっとアイヌでありながらアイヌの文化を知らずに過ごしてきた分、すぐく燃えているところが今ありますので、これからもできる限り、トンコリも含めてアイヌ文化を学んでいきたいと考えています。アイヌだけでなく、日本人の皆さんも一緒にやってほしいし、学んでほしいと思います。アイヌ文化も日本文化ですから、アイヌ文化をずっと残していきたいという希望や思いは強いのです。

最後に、伝統曲は苦手で覚えていないので、オキと一緒にライブで演奏している曲を演奏します。『キムスボ』（葛野辰次郎著）から抜粋してオキが曲をつけた「トバットゥミ」という曲で、これは多分「襲撃」という意味です。ある時、北海道に泥棒がやって来て、アイヌの住む山、川、生活、風習全て奪い去った。アイヌの魂、精神を絶対、忘れるなよとエカシたちが言っているのです。要するに、先祖を大切に思えよ、それが根本になるよ、先祖を忘れるものは根っこのない木と一緒にだよという基本になるようなことをエカシは言ってくれていると思います。

（トンコリ演奏）